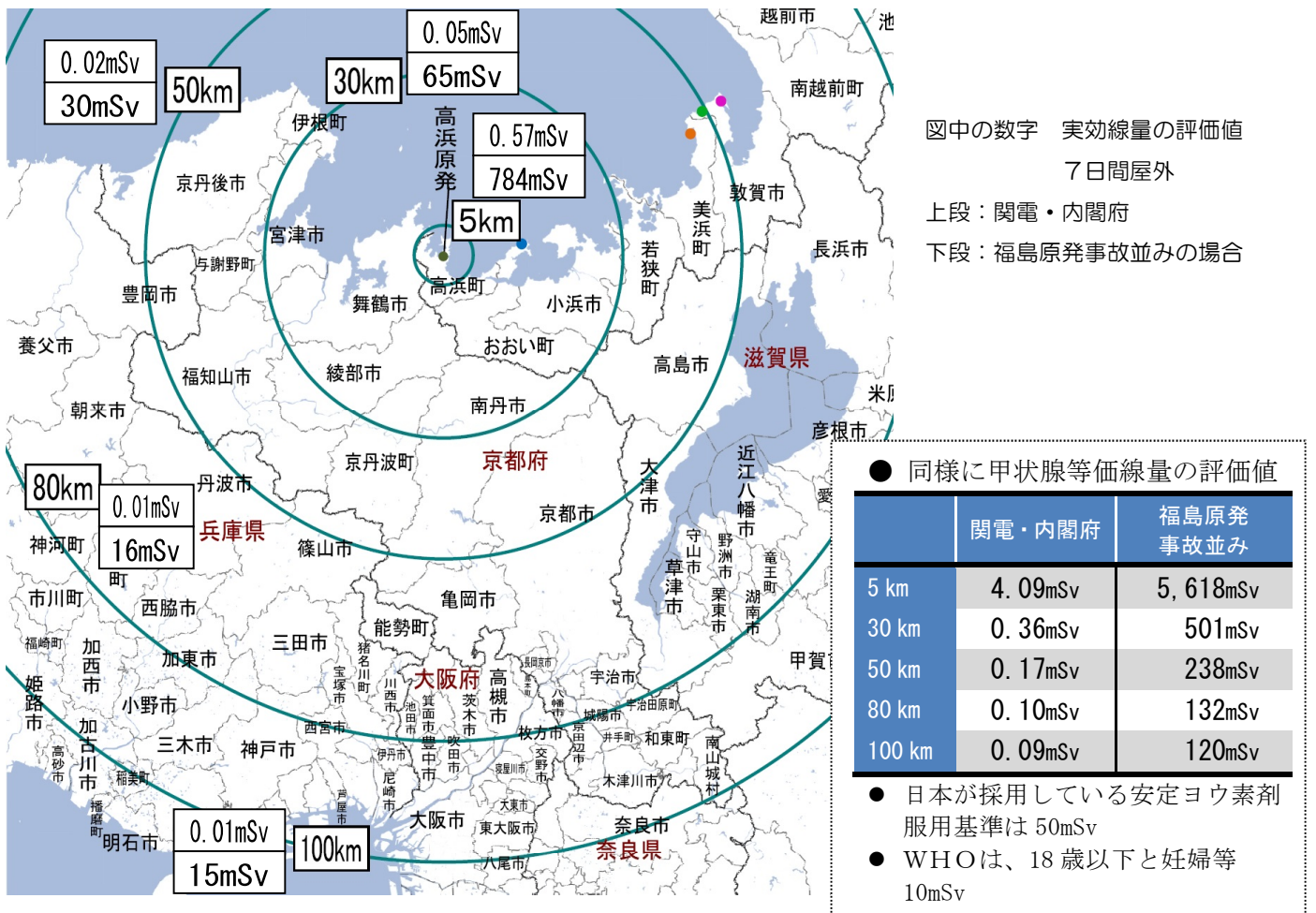


高浜原発3・4号の再稼働を止めよう！

あまりにひどすぎる！ 福島原発事故を無視した被ばくの過小評価

関電・国の評価：5 km地点で1 mSv 以下（7日間屋外・実効線量）
 福島原発事故並み：5 km地点で784mSv（条件は同上）

関電・国の被ばく評価は、驚くほどの過小評価です。内閣府は「PAZ、UPZ内のいずれの地点においても、実効線量および甲状腺等価線量とも、IAEAの基準を十分に下回る」と結論付けています。関電や国は、各地の住民説明会等で、被ばくはたいしたことはないと宣伝しています。このようなことが国の審査で真顔で議論され合格しているのです。福島原発事故を無視し、周辺住民の安全をないがしろにしています。そして自らの責任逃れのために、基準に適合してもそれ以上の事故の可能性は否定できないので「安全とは言わない」という無責任ぶりです。このような関電や国に住民の命を預けることはできません。多くの人にこの事実を広めよう。自治体首長や議員にも知らせ、再稼働反対を表明するよう求めよう。



関電・国の過小評価は、以下のような、条件に基づいている。これ自体が、地震時に施設内で地割れなどが発生するような事態は無視した夢物語で、設置許可基準規則55条に違反している。

- ・放射能放出率は福島原発事故時の千分の1以下（放出率：関電・国：0.00153% 福島原発事故2.1%）
 - ・その根拠として、事故後約60分で電源車やポンプ等が働き、格納容器内のスプレイ作動、負圧に成功
 - ・格納容器の損傷なし
 - ・原子炉圧力容器の底がわれるメルトスルー開始（108分）時には放出はほぼ終了
- 関電・国の評価（右URLの最後から3頁） <http://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/documents/03naikakuhu.pdf>